

平成23年度 第2回

市原市 保健福祉懇話会 高齢者保健福祉専門部会 議事録

日時	平成23年11月21日（月）午後2時00分～午後3時20分
場所	市原市市民会館 2階 会議室3
出席委員	竹原座長 長谷川委員 井口委員 亀田委員 大澤委員 黒須委員 河島委員
事務局	星野課長 多久島課長補佐 伊藤係長 宇佐美係長 佐藤係長 酒巻係長 中田所長 深山
議題等	第6次市原市高齢者保健福祉計画（第5期介護保険事業計画）の素案 について
議事等の概要	第6次市原市高齢者保健福祉計画（第5期介護保険事業計画）の素案 について
【開会】 多久島課長補佐	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、進行を務めさせていただきます多久島でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>会議に先立ちまして、あらかじめ郵送させていただきました会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>第6次市原市高齢者保健福祉計画（第5期介護保険事業計画）素案です。</p> <p>また、本日お配りしました資料としまして、計画における介護給付量に係る推計、策定経過及び今後のスケジュール、次第、席次表、部会委員名簿となっております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ただいまから平成23年度第2回市原市保健福祉懇話会高齢者保健福祉専門部会を開催いたします。</p> <p>初めに、竹原座長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
【座長挨拶】 竹原座長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>座長を務めさせていただいております竹原と申します。</p> <p>亀田委員は今回初めてです。よろしくお願ひいたします。</p>

<p>多久島課長補佐</p>	<p>座らせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>前回の懇話会は、第1回目でしたが、皆さんからいろんなご意見をいただきました。特に河島さんからは、利用者の立場として具体的なこととお話しただいて、大変参考にさせていただきました。</p> <p>事務局からのご説明ですと、この部会を3回開くということですので、今日は3回中の2回目ということになります。皆様には結構分厚い素案というのが事務局からお送りされていると思いますが、この内容を協議しないと、計画が固まらないということですので、限られた時間ではございますけれども、是非、前回同様、積極的なご意見をいただければと思います。</p> <p>今日はひとつよろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の議題についてご協議をお願いします。</p> <p>進行につきましては、座長をお願いいたします。</p>
<p>【議事】</p> <p>竹原座長</p>	<p>まず初めに、本日の部会の議事録署名人をお願いしたいと思います。</p> <p>名簿の順番から、亀田委員と黒須委員をお願いさせていただいてよろしいですか。</p> <p>なお、今日の会議の傍聴者はいらっしゃいません。</p> <p>では、早速議題に入らせていただきたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>【事務局説明】</p> <p>伊藤係長</p>	<p>説明させていただきます。</p> <p>では、素案をご覧ください。素案は、先日開催いたしました第1回会議でご意見をいただきました骨子案を踏まえまして作成いたしました。この専門部会では、素案について全体の考え方や保健福祉サービスの事業などについてご意見をいただきたいと思いますと考えております。別に、明日開催予定としております介護保険事業推進協議会におきまして、やはり全体の考え方と、こちらは介護保険の事業についてご意見をいただく予定としております。</p> <p>では、まず表紙をめくって1ページ目の目次をご覧ください。</p> <p>総論及び各論という構成となっております。最終的な計画書といたしましては、これに資料編といたしまして、計画の策定過程ですとか、平成21年度から23年度までの実績数値などを付ける予定で</p>

す。

また、目次にごございます84ページ、85ページからの介護保険料に関係する部分、第4章というのがありまして、こちらは保険料や保険料を定めるに当たっての国、県、市等の割合、保険給付費等の見込み、保険料などを記載する予定でございまして、現在のところ、介護報酬などについて国がまだ定めている途中でございまして、記載しておりません。

では、総論の内容を説明いたします。

前回の会議でご意見をいただいた骨子案と同様の部分も含まれてございまして、簡単に説明させていただきます。

まず、2ページ、第1章「計画の策定にあたって」です。

計画の策定に当たっては、計画策定の趣旨、期間などを記載してございまして。

次に、6ページの「第2章高齢者の現状と推計」は、計画策定に当たり、その背景となる高齢者人口などのデータ及び人口調査の結果のまとめでございまして。人口調査におきましては、在宅で暮らすための体制の整備、保険料額の抑制、サービスについての情報提供などが今後の課題となっております。

16ページの「第3章高齢者保健福祉施策の現状と課題」は、平成21年度から23年度までを計画期間といたします、現在の第5次計画における介護保険サービス及び保健福祉サービスの状況と今後への課題です。19ページで課題のまとめとしまして、高齢者人口が増加することから、サービスの量的拡大が必要となることや、介護予防事業などを拡充する必要があることなどを記載しました。

20ページで、「第4章日常生活圏域」は、圏域の設定や圏域ごとの高齢者人口などの状況を記載しております。次期計画においては、現在の日常生活圏域を引き継ぐこととしています。

次に26ページ、第5章ですけれども、基本理念とそれに基づく目標、重点的に取り組む項目、施策体系でございまして。基本理念及び基本目標は、現在の第5次計画を引き継ぐこととしています。重点項目ですけれども、高齢者が地域で自立した生活を営むことができるよう、その支援策としてこの4項目を掲げました。

次に28ページ、「3 事業・サービス一覧」とありますけれども、これは、前のページにごございました3つの基本目標ごとに、それぞれ対応する事業を記載しております。事業名に米印がついているものが新規事業です。一番右側の重点項目の欄に印があるものは、27

ページの重点項目に対応しているものです。

以上で総論の説明を終わらせていただきます。

次、各論の内容を説明いたします。

34ページをご覧ください。各論の第1章は基本目標1に対応しております。「だれもが、生涯にわたってその人らしく、安心して暮らし続けることができるまち」といったものでございます。介護保険の給付に係る部分です。今日お配りした資料で、介護予防給付量に係る推計というのが机の上に用意してあったかと思えますけれども、ここではこちらを併せてご覧ください。

この推計値は国のワークシートによるものでございます。現在、推計作業を進めているところでありまして、確定値ではありません。また、施設居住系サービスと新設のサービスについては、見込み量が固まっていないことから算定してございません。本日は、高齢者人口及び要支援・要介護認定者の見込み数の推計などに基づきまして、おおむねこのような形でサービス量を今後見込んでいく予定であるということが参考資料としてご提示させていただいております。なお、資料は後ほど回収させていただきます。

では、素案に戻ります。

34ページ、居宅介護サービスの充実。39ページ、居宅介護予防サービスの充実ですけれども、こちらは現在のサービスに加え、特定施設入居者生活介護について、高齢者の居住に係る支援などの視点から、サービス量を見込んでいく予定としています。

次に44ページ、地域密着型サービスの充実。47ページ、地域密着型介護予防サービスでございますけれども、今回の法改正で新設されたサービスであります定期巡回・随時対応型訪問介護看護と複合型サービスについて、見込み予定としています。なお、夜間対応型訪問介護については、訪問介護の深夜時間帯のサービス提供や、緊急通報装置貸与事業などにより、ある程度代替することができる状況でありますことから、現在の第5次計画に引き続き見込まない予定です。

次に48ページ、施設サービスについてですけれども、こちらは介護保険の3施設、特別養護老人ホームと老人保健施設、介護療養型医療施設を記載しています。介護療養型医療施設については、ほかのサービスへの転換期限が延長されましたので、現在の施設のまま、変わらない予定です。

50ページ、こちらには施設・居住系サービス整備目標と書いてありますけれども、介護老人福祉施設などの施設・居住系のサービスに

ついて、計画期間中3カ年の整備目標を掲載する予定です。

次に第2章、51ページです。第2章は基本目標の2「だれもが、生涯にわたって健康で、生きがいをもって生活できるまち」に対応しております。

介護保険の地域支援事業の部分と、保健福祉サービスのうち社会参加の推進にかかわる部分を除いた在宅福祉サービスや保健医療サービスといった部分に対応しております。

地域支援事業につきましては、今回の法改正で導入されました、介護予防日常生活支援総合事業ではなく、従来どおり地域支援事業として取り組んでまいります。

59ページ、10番で家族介護用品の支給とあります。おむつ給付に関しまして、現在は保健福祉サービスとして実施しておりますけれども、今後は一部支給方法などを見直し、地域支援事業の任意事業として実施していく予定です。

それから60ページ、在宅福祉サービスの充実です。保健福祉サービスについては、高齢者の生活を支援するため、基本的に現在実施している事業を引き続き実施していきたいと考えております。また63ページ生活環境の整備ですが、今年度法改正がありましたサービス付き高齢者向け住宅の周知や災害対策などに取り組んでいくほか、仮称市原市高齢者憲章について検討してまいります。

サービス付き高齢者向け住宅の周知は66ページ、災害対策は67ページ、それから高齢者憲章は、70ページです。

では、次は第3章、79ページです。第3章は基本目標の3「地域でふれあい、助けあい、支えあうまち」に対応しております。

保健福祉サービスのうち、社会参加の推進の部分と地域包括支援センター事業に対応しております。

まず、社会参加の推進につきましては、現在の事業に引き続き取り組むとともに、市民後見制度の普及を行ってまいります。

82ページの地域包括支援センターの事業につきましては、センターの運営委託や介護予防ケアマネジメント事業の充実を図ってまいります。

以上で素案の説明を終わらせていただきます。

その後のことですが、本日の資料で、策定経過及びスケジュールとありますが、こちらをご覧ください。今日いただいたご意見を踏まえまして、今後はこの素案をさらに取りまとめさせていただきます、12月にパブリックコメントを実施する予定でございます。その後、

<p>竹原座長</p>	<p>来年1月にパブリックコメントも反映しました最終案を検討いただきまして、計画の決定を行い、保険料の条例改正を経て、計画策定となる予定にしております。</p> <p>簡単でございますが以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ページをめくるだけでも大変だと思いました。</p> <p>事務局の方、非常に国の情報が遅れ遅れになっていたから、事務局の方の作業は非常にご苦労されているかと思えます。</p> <p>これから皆さんからご意見をいただきます。</p> <p>まず総論で、何かお気づきの点をお願いします。</p> <p>座長の私からお話しします。この計画は、引き続き継続しているものですが、特に高齢者をめぐる状況というのは非常に厳しくなってきたということで、背景として、これから10年後20年後を見据えた計画時期という点が少し弱いのかなと思いました。具体的に言えば、2055年には平均寿命が女性は90歳、男性は85歳を越える非常に長寿になると書かれています。また、そのときには高齢化率が40%、人口が8,000万人台になると、ここにも書いてありますけれども、人口が減って高齢化率が30%、40%になります。80代、90代の人が高齢者の割合が高くなってくるとなると、どうしても要介護となる高齢者が増えてきますので、できれば2025年というのは、いわゆる団塊の世代がすべて後期高齢者、75歳になるという、もうちょっと背景の厳しさが、読み取れる工夫があればよいと思いました。多分その辺を見据えて書かれているとは思いますが。</p> <p>地域包括ケアと書かれています、国の文書等ですと、看護と介護が一体的に必要なに応じて途切れのないということが書かれてあるのですけれども、亀田委員、何か意見ございますでしょうか。</p>
<p>亀田委員</p>	<p>私は直接的に、今そのような看護の業務をしているのですが、近くに地域包括支援センターがあり、結構活発に活動しており、住民の間に入って行って、いいケアをされているなど感じています。</p> <p>市原市は割と進んで積極的にやっているなという印象を受けています。</p>
<p>大澤委員</p>	<p>長寿になっていくというところには、65歳から90歳まで25年</p>

	<p>もあります。</p> <p>長寿になれば、「高齢者」でいる期間がとても長くなるわけで、自分の健康管理をしていかなければいけないと思います。今、自分の舅が要介護認定を受けているのですが、要支援2から1年過ぎたのですが、最近段々状態が悪くなってきています。私が昼間仕事をしている間、1人きりでいるわけですがけれども、この間に何か手だてを打てなかったかなと感じています。</p> <p>東京の町田市だと思いますが、元気な老人をつくるための活動として、バスを何台かに分けて、畑が好きな人は畑に行って畑づくりをしたり、子供たちと触れ合いたい人は学校に行って子供たちとふれあったり、買い物が好きな人は街に買い物に連れて行ったりと、老人を1人にしないという活動をしていて、すごく大事なことだと思います。</p> <p>介護状態になった方に介護の政策を手厚くしても、状態は良くはなりません。</p> <p>私の場合、毎日おばあちゃんを連れ出してもらっていることです。人と接した後、すごく足腰が元気になります。</p> <p>それにしても、おひとりの老人がとても多く感じますね。</p> <p>寝たきりの方に掛かるお金は300万円と聞いたことがあります。その前に予防にお金をかけた方が安くすむと思います。都会の市とは違い、市原市は畑には恵まれていると思います。</p> <p>この間100歳の方26人とお話しする機会がありました。100歳まで元気に生きる人は、やはり恵まれているのだと思いました。畑もあって、自分の子供もきちんと面倒を見てくれて、三食の食生活もきちんとしていました。</p>
竹原座長	<p>確かにこれから高齢化、長寿ということで、高齢者でいる期間が非常に長くなります。それをどう過ごすのかというのが重要で、特に介護予防というのが非常に重要というお話ですね。特に1人というのは決していいことではないです。自由気ままでというだけでは済まされないという時代だと思います。</p>
大澤委員	<p>1人になると、認知症になるのが早いですね。</p>
竹原座長	<p>やはり社会に参加することが一番の予防という気がします。事務局からは何かありますか。</p>

事務局
(星野課長)

今、介護予防というお話をいただきまして、この計画の中でも介護予防が第2章にあり、重視をしていこうという姿勢は打ち出しております。介護予防という言葉については、介護保険事業の中では、大きく分けて3段階あると思います。1点目は要支援認定を受ける方、それはいわゆる介護給付サービスの中で予防給付という形で名前がついていまして、これ以上悪くならないように介護サービスを受けるという大きな一つの予防というのが1点。

それから2点目として、要支援・要介護の認定まではいかないのだけれども、その状態に近づいているような方々を何とかしようということがございます。これは介護保険事業の中で、地域支援事業という大きな枠の中で実施していくこととなりますが、昨年度、そのやり方が全国的に国でルールを変えまして、より幅広くそのような方々を今後、把握をしていこうということになりました、市町村で介護一歩手前の方々をなるべく把握して、その方に介護予防に取り組んでいただくようになりました。今までは特定高齢者という言い方をしていましたが、名称を市町村ごとに決めていいということになりましたので、市原市では元気をアップしてもらいたい高齢者の方、ということで元気向上高齢者という名前をつけました。先ずアンケートを行い、生活状況を分析させていただいて、介護予防が必要な方には、運動と栄養と、お口の健康、この辺がセットになった介護予防事業に参加いただくことを、この計画の中でも位置づけております。

また、3点目としましては、先ほど町田市町田市の農業体験の話がありましたが、一般の高齢者対策の事業です。まだまだ元気なのだけれども、これからも元気な状態を保っていただくということで、いろいろな啓発、講演会を行っています。恐らく、町田市町田市の事例で言いますと、地域に合ったニーズとか特性に合った介護予防事業ということになると思うのですが、一例を申し上げますと、市原市では、Jリーグサッカーのジェフユナイテッド市原・千葉というサッカーチームがございまして、いろいろなコーチ、トレーナーの中に、そういった運動を指導する専門のスタッフが大勢います。ジェフと協力しまして、一般の方を募集して・・・実はあさっての24日にも3回目がありますが、サッカーのノウハウを使って介護予防に取り組んでいただく運動教室を、昨年からはじめました。地域の中で持っているネットワーク・人脈を使って介護予防に取り組んでいこうということでございます。

1人にしないということで、これはやはり介護保険事業ではないんですが、いわゆる生きがいづくりとして、老人クラブの活動ですと

<p>竹原座長</p>	<p>か、あるいはこの中でも、地域の中での見守り、小域福祉ネットワークですとか、単なる市の施策だけではなくて、地域の中でお互いに見守ったり助け合ったりできるような取り組みをしていこうということで、幾つかの施策を位置づけていこうと考えております。</p> <p>初めに課題ということで幾つか挙げましたが、国からも示されております、高齢化する中で必要なことの大きな条件の一つとして、やはり介護予防というのがあると考えておりますので、この計画の中でもぜひ取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>介護予防についてお話しいただきましたけれども、恐らく介護保険は行政だけで対応し切れるような段階ではなく、むしろ地域の一人ひとりにかかわっていく、そんな時代になると思います。そのようにしないと、なかなか地域での人と人とのかかわりとか、最近は絆とかと言われてはいますが、そこに参加することが一番の介護予防なのかなという気がしています。</p> <p>地域のかかわりということに関して、老人クラブ代表として長谷川委員から何かありますか。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>高齢者本人はもとより家族の方の、ある程度協力がなくてはなかなかできないというのが現実です。</p> <p>高齢者本人は、体自体、幾らか弱体化してくるので、意欲というのは欠けてきています。自分である程度努力しようという考え方が希薄になってきます。これが一番問題で、なるべくそういう事態を招く前に活動することが重要です。仲間同士で励まし合いながら、まだまだできるという意識を強めながら、自分に迫ってくる老いというものを阻止しようと思わせようとはしますが、なかなか高齢者というのは意思が薄弱になってきていますね。「もう俺はだめだ」という考え方が非常に濃厚です。</p> <p>ですから、意欲的な気持ちに誘導するというのは並大抵なものではないです。理論的なものではありません。このことは随分苦慮しています。それには何か本人の魅力的なものを引き出すことのできるような雰囲気、そういうものをつくることが必要と思ひ、いろいろな活動をやっています。やっても、いかんせん孤立的な感覚になられて「おれは体がもう悪くて病院通いだよ」と言う方が多いです。孤独、寂しさを表現することもできないし、さりとて自分で処理することも</p>

竹原座長	<p>できない。意欲の低下についていつも苦慮しています。こういう方法もいいじゃないかということがあれば、教えていただきたいと思っています。</p> <p>長谷川委員が、最初に言われた仲間同士というのは非常にいいと思います。</p>
長谷川委員	<p>年齢的には女性の場合は、80歳過ぎの人が多くなって来るわけです。それから男性でも、80歳位の方は意欲の低下があります。老人クラブとしては、何とかそういう方が前向きになるように引っ張ろう、引っ張ろうと思っているのですけれども、どのように支援したら良いかいつも疑問に思っています。やはり一番大切なのは、家族ぐるみで、「うちのおじいちゃん、おばあちゃんは、こういう人間・性格なのだから、このようにしようか、こんなこともさせようか」という理解がないと、なかなかできないのではないかと考えています。</p> <p>だから、独居老人というのは外部からの刺激がないから、自分であきらめ感が生じているのだと思います。いくら行政から一生懸命働きかけても、それに乗らないというところがありますね。まずそのような個人の精神的なもの、心というものをどのように誘導していったらいいのか考えていますが、非常に難しい面が多分にあります。</p>
竹原座長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>お話のように、やはり家族は大事だと思います。家族の中で、お年寄りの方がどういう形で位置づけられているかということです。理想と現実の話をご報告いただきましたけれども、このようなことも踏まえ、各論について自由にご意見いただければと思います。</p> <p>お元気で生き生きとした生活に越したことはないですけれども、病気だとか事故で要介護状態になっても、やっぱりその人らしく生き生きとして欲しいです。要介護になった人場合は、その本人とご家族が責められるみたいなどころがあります。その辺は気をつけなくてはいけないという気はしています。</p>
長谷川委員	<p>家族ぐるみでそういう考え方をするのならいいのですが、所帯を持っている中年の方というのは、年寄りよりも自分の子のほうに目が行ってしまいます。自分の親まで手が届かないというのが実態じゃないかなと思います。</p>

<p>竹原座長</p>	<p>あわせて年寄りの意欲がなくなったということが、弊害になっているのではないかなと感じます。本人自体あきらめているから、なかなか困難なのが実態です。</p> <p>33ページから各論ということで、介護保険のサービスを中心に、サービスの内容等細かく書かれています。</p> <p>河島委員、前回、利用されてのご意見をいただきましたが、何かご意見ありますか。</p>
<p>河島委員</p>	<p>以前もお話ししたと思いますけれども、山口県におりましたので、そちらの方での感覚と比較をしてみたりしながら、今、観察の段階であります。</p>
<p>竹原座長</p>	<p>井口委員からは前は要介護認定のお話をご報告いただいたのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>井口委員</p>	<p>訪問調査員が、何十項目か調べるのですけれども、調査票の概況欄に「親しい友達が近所にいて、毎日様子を見に来る」というのがあります。家族より何よりも年の近い友達が近所にいて、様子を見に来てくれて話し相手になってくれるだけで、すごく本人は助かると思うし、うれしいと思います。友達は大事だと思います。特に年をとってからの友達は死んで別れやすいものですから、友達がいる人は幸せだなと感じています。</p> <p>それから、デイサービスに楽しみで積極的に行く人と、家にこもって行きたがらない人といいます。デイサービスを楽しみにしているという調査票を読むと、ほっとします。「この人、そういうところがあるのだ。人生を楽しんでいるんだ。」と思います。やはり年をとってくると、先が短く、行く末が見えてきているようなところがありますから、何か生きる喜びとか楽しみとか生きがいとかがあれば、一日一日の質が少し高く、いい毎を送れると思います。</p> <p>65歳以上を高齢者といいますますが、現実には今、65歳も75歳も結構仕事ができる人が多いので、仕事の場がもう少し少ないのかなと思います。私も70歳を超えましたが、私の同級生のほとんどが仕事をしていません。50人ぐらい同級生がいるうち、わずか3人ぐらいが仕事をしています。他の方は、言葉は悪いですが「ご隠居さん」になってしまっています。体も頭もまだしっかりして働けるの</p>

	<p>に、働く場がないのが少し問題だなという感じがしています。</p> <p>話がとびますが、3月11日の震災以降、私の町内会では東海地震を想定して、東京湾に津波が来たらどこへどうやって逃げるか、寝たきり老人とか高齢者をだれがどうやって運び出すかというのを、具体的に全員集まって相談したことがあります。それで初めて、どこにどのような年寄りがいて、どの程度の状態かというのがわかりました。そのような話し合いが、町内会とか隣近所で行う必要があるのかなと思いました。</p> <p>また、各公民館で60代、70代の人たちの生きがいづくりということで、講義したり講演したり、バスを提供してバス旅行で鎌倉に行ったり横浜に行ったり水戸に行ったというようなこともやっています。出てきてくださる方は元気でいいのですけれども、出てこれない人をどうするか、そういうことを本当は考えなくてはいけないと思いますが、同時に、元気な人も弱らないように楽しみを与えることが必要だと思いました。</p> <p>長野県は高齢者が非常に元気で、国保が黒字になっている珍しい県と聞きます。「ピンピンコロリ」と言うのですが、高齢者が元気で病気になるらずに、認知症にならない、あるときコロッと死ぬというのが一番理想なのです。私は薬剤師ですから、いろいろ高齢者につき合いがあるのですが、痛い、苦しい、つらいで死ぬのは、かわいそうですから、あるとき、気がついたらあの世になっていたというのが一番理想です。そうするには、85歳ぐらいまで長生きすると、苦しんで死ぬ確率がぐっと減ります。安楽死のような大往生が増えます。ですから、おいしく物が食べられて、トイレに行けて、お風呂に入れて、簡単な旅ぐらいはできるというぐらいの状態です長生きしていただければいいと感じています。</p>
竹原座長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>長野県は確かに元気が多いと聞きますが、何か御存じの方はいますか。</p>
事務局 (星野課長)	<p>長野県は元気が多いことと、就業率がすごく高いということが相関としてあると聞いたことがあります。</p>
井口委員	<p>おやきをつくるとかですね。</p>

<p>事務局 (星野課長)</p>	<p>非常に高齢になっても就職されていらっしゃる方の割合が多くて、それによって健康な状態を保っているということが、大いに相関があるときいたことがあります。高齢者に対する仕事の場を確保するというのが非常にやはり重要なことだと思います。</p> <p>今回の計画の中では、就労支援ということで、お仕事の紹介ですとか、シルバー人材センター、活動支援というようなことを挙げさせていただいています。国の社会保障と税の一体改革の中で、年金支給年齢がいつになるかとか決まっていませんので、市としての明確な施策を打ち出すのが難しいです。</p> <p>しかし介護予防、健康づくりとご長寿とお仕事の話というのは非常に重要な話だと感じています。</p>
<p>竹原座長</p>	<p>やはりできる限り長く働き続けられるというのは、それに越したことはないですし、特に農業、漁業とか第一次産業というのは、基本的に定年はありません。</p> <p>市原でも地域によっては、そのような状況がまだまだあるとは思いますが。社会に自分が役に立っているのだということが生きがいとしてつながると良いと思います。</p> <p>長谷川委員からも話がありましたが、外へ出ていく人はいいのですが、一方では閉じこもってしまう人との差、ここをどう埋めたらよいのでしょうか。この中にも書かれていますとおり、地域としてネットワークとか、小域福祉ネットワークとか町会とかというようなつながりが大切だと思います。3月の大震災の時もこの「絆」が叫ばれました。</p> <p>去年の8月、9月は「消えた高齢者」などと、死後何年とか、いなくなってから十何年とかいう話がありました。そのような中でやはり地域として、本当に隣にだれがいるかわからないようなところを何とかしようとかたちで動き出しているのは確かだと思います。ですから、行政のほうも余り個人情報、個人情報といわず、きちんとセキュリティーをした上で、必要なものは出していくべきと考えます。そんな中にやっぱり閉じこもりがちの高齢者がいることは、残念なことです。</p>
<p>井口委員</p>	<p>私は薬局を経営しておりますが、結構ひとり暮らしの高齢者がおしゃべりをしに店に来ます。何か買う用があるわけではないですが、うちの女房と長話をして、中にはお茶を飲んでいく人もいます。町には</p>

長谷川委員	<p>そういう医療機関の待合室が年寄りのたまり場になっているケースもあるのだそうですが、薬屋とかいろんなお店屋さんで年寄りが集まれる場所がいっぱいあると、そこへ仲間が来て孤独化とかを防げるのではないかと思います。</p> <p>そういった店は、まだまだ少ないのかも知れません。</p> <p>老人クラブではいろいろな活動をしています。グラウンドゴルフというのが非常にふえてきました。それと、県老連で、健康に対する講習なども開催されます。それから、文化活動というと囲碁将棋、演劇、芸能関係、踊り等をやっています。あとは、警察当局と連携をとりながら安全の関係の指導もあります。旅行もあります。旅行は、人間関係をつくって交流できるということが非常にいいと考えています。この場に行政の方がいらっしゃるので言いますが、旅行に対する例えば奨励金みたいなのを幾らか出して頂いたら良いと思います。</p> <p>高齢者になると、歩けなくなったとか、腰が曲がっているから腰が痛いとか、それなら家にいたほうが良いという考えになってしまい、バスに乗るにしても、歩いて見るにしても、嫌気がさして、行くことがいやになったりします。</p> <p>他には、奉仕作業として、神社仏閣、公園等の清掃をやってもらっています。中腰で草をむしることが、7割か8割の方はできなくなっています。外部の人が見ると、そこまでやらせるのかというような感想を思われがちです。ですから、非常に難しい面が多分にあります。</p>
竹原座長	<p>多分簡単に答えというのができることではないと思います。やはり町会とか理事会とかで、何かしようという一步一步の積み上げしかないと思います。</p>
長谷川委員	<p>作品展や何か、1つでも趣味を持っている人というのは、案外若さが違う。楽しみがあるから、若さがあります。だから、全部が全部そのようにさせれば良いじゃないかと思いますが、なかなかできないのが現状です。</p>
竹原座長	<p>特に介護予防ということが、大きく話題となっていますが、例えば各論の中の介護保険事業で、施設で24時間絶え間ないサービスを本当にできるのか、また必要なのか、こういうことに関して、ご意見い</p>

黒須委員	<p>ただければと思います</p> <p>だれしも自分のことは自分で最後まで、ピンピンコロリというのが夢ですが、そうはならないのも現実です。家族は寝たきりの高齢者、要介護の高齢者を支えるというのも限度にきています。少子化の中でどうしても施設入所の希望は多くなってくると思います。黒須委員、ご意見をお願いします。</p> <p>まず、私も戦後の第1次のベビーブーム生まれです。ですから、あと少しで自分も今のこの厳しい状況の介護される側に行くのかという思いがあります。介護状態になると膨大に費用もかかり家族も犠牲となります。だから、「要介護になってよかった」という人はだれ一人いないわけです。家族にしても、本人はつらいだろし、行政もお金が出て大変です。そう考えますとやはり予防に勝るものはないです。そうした場合、予防といっても意味はとても広いです。もっと教育の場にこのような福祉のいろいろな状況を具体的にわかりやすい場をつくれたらよいと思います。もっと小学生、中学生を巻き込んで、「ああなりたくはないな」とか、困るなということを感じて体で感じるような場があったら良いです。</p> <p>子どもたちが何か意識することで、家庭に帰ったら自分の親の不摂生を正してもらえればいいのかと思います。</p> <p>何でこんなに認知症が多くなるのかとか、長生きって、昔はどうだったのかなとか考える機会があるといいです。</p> <p>私が施設をつくる前に、全国のおもだった介護施設を見てまわった中で、四日市市の老健施設がありました。</p> <p>みんながペットボトルを持ってきていました。みんな温泉を持って帰る目的なのです。町で温泉を掘ったのです。温泉に温まって、いろいろそこでコミュニケーションを図って、お年寄りが集まってきていました。結果として、その町の医療費はすごい勢いで減少しているということです。</p> <p>やはり昔から地域のいろいろな知恵というのがあったと思います。このような情報交換の場だとか、1つのモデルをつくってみて、行政もそういったモデルを少し支援するようなことができるといいと思います。</p> <p>例えばどこかのお店がシャッター通りになっているのなら、この一角をコミュニケーションの場所にするなどです。</p> <p>現在千葉大の環境デザイン課の学生たちが私の施設に出入りしてい</p>
------	---

井口委員	<p>ます。まちおこしでいろいろ調査研究しているのです。道路の脇に、椅子や縁台のようなものを置くことを提案しています。これを置くことによって、人がそこに寄りコミュニケーションが図れて、前の肉屋さんの売り上げが伸びているということがあります。</p> <p>私も店の前に縁台を置いてあります。3人ぐらい座れるものです。昼間はおじいちゃん、おばあちゃんが休んでいます。</p>
黒須委員	<p>そういう些細なことの積み重ね、ちょっとした心がけで、もっと本来持っている力がでてくるのではないのかと思います。</p> <p>介護施設をやっていると、いい話というのははっきり言って皆無です。お金のことから、人とのトラブルから、健康面から、聞いていて本当にストレスが溜まります。</p> <p>介護保険も大変至れり尽くせりだと思います。私が施設で見ていると残念ながら、喜ぶ人も勿論いますけれども、やはりずる賢いような人もいまして、「介護は使わなきゃ損」というような人たちが増えつつあるような気がします。</p>
井口委員	<p>黒須さんへ質問ですが、介護施設を運営する中で、介護サービスを1割負担がきつくて受けられないという人はいますか。</p>
黒須委員	<p>確かにお年寄りはお金がない方が多いです。お金となるととてもシビアな反応となります。</p> <p>1割をケチってしまうと、今度は健康を害されたり、部屋を汚されたり、後々そのしわ寄せがきてしまうということをご家族に説明します。お金のことに関しては、最初にはっきりとしめしておくことが、大事であると思います。</p>
竹原座長	<p>介護サービスは、形として残るものではありません。形として残らないサービスに400円払うのなら、例えば御飯のおかずをもう一つ増やしたいという考えがあるのではないのでしょうか。</p> <p>市原市も支給限度額まで使っている人というのは少ないと思いますが、やはり自分ではできないところだけを介護サービスを使うということだと思います。</p>
黒須委員	<p>介護保険を頑張って使わない人もいるわけですが、私はそう</p>

竹原座長	<p>いう使わなかった人に、褒美のような評価があると良いと思います</p> <p>例えば施設の職員では、有給を消化して当たり前かもしれない中、使わない人もいます。ですから、私らはそれを賞与のときに評価して増額しています。いいことをし、これが評価されればいいことをしようとする人が増え、いい方向へと進みます。これから地方の時代ですから、市原ではこのようなことを市原方式として、取り組めるとよいと思います。</p> <p>就労の場において、働きたい人を紹介する人材バンクのようなものが、市にあって良いと思います。介護人材は国県での取り組みが多いですが、施設としては政治に余りにも振り回されている感じがしています。</p> <p>今、確かに頑張っている方が地域にたくさんいらっしゃるかと思いますがけれども、介護保険というのは必要なサービスをみんなでお金を出し合って、家族だけに負担をかけずにみんなを支えましょうというしくみなので、なかなか頑張っている人に対して、保険の中から支援金を出すのは非常に難しいかと思います。</p> <p>しかし「使わなきゃ損」というのは間違いだと思います。やはり公的保険というのは、掛け捨てが一番いいことです。医療保険もそうですが、一人一人が自覚をしていくべきです。介護保険に関係していないと、なかなかこれはわからないですけれども。</p>
河島委員	<p>介護施設では、お年寄りばかりが足を運ぶ所では駄目です。近くに幼稚園がある場合は、幼稚園の子供さんを月に1回でも2回でも来てもらって、お年寄りと接触させるような会をつくったらいと思います。そういう接触の機会を市でつくられると良いと思います。</p>
竹原座長	<p>先ほど、教育というお話もありましたが、お年寄りの方と接するのは、お子さんにとっても良いことです。計画でも「世代を超えた交流」という書き方がされています。</p>
河島委員	<p>お年寄りばかりで歌ったり遊んだりしても楽しくないと思います。</p>
井口委員	<p>ヨーロッパでは施設でも、子供の施設とお年寄りの施設が併設というものが結構あります。設備もそのように作ってあるところが結構多く、頻繁に交流できるものとなっています。</p>

黒須委員	<p>特に学童保育等が多いですね。屋根裏にお年寄りと子供たちが来て、年寄りが見て過ごしているというのを聞いたことがあります。</p>
竹原座長	<p>今のことで事務局から何かありますか。</p>
事務局 (星野課長)	<p>今、座長からお話がありました世代間交流・福祉教育ということですが、計画でも文章では挙げさせていただいておりますが、市として体系的・具体的な仕組みとしては、確立していません。</p> <p>事例でありましたが、学校、幼稚園で独自に訪問活動、それから慰問をやっていただいている現状です。</p> <p>子供に対しての世代間交流・福祉教育という観点はとても重要なことだと思いますので、一つのキーワードとして考えていきたいと思えます。</p>
竹原座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他ございますか。</p>
井口委員	<p>計画では今まで話していたこともかなり盛り込まれていて、非常によくできていると思います。</p> <p>ただ、市原方式といいますか、市原独自のものも入っていると良いと思います。</p>
竹原座長	<p>「長生きしたときに良かったと思える」ものになると良いと思います。介護予防のことも、実際、地域でご苦労されている現状等も具体的にお話しがされたと思います。</p> <p>ほかにご意見ないようでしたら、素案についてはこれでいたします。</p> <p>今日の会議はこれで終わりにいたします。</p>
【閉会】 多久島課長補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、第2回市原市保健福祉懇話会高齢者保健福祉専門部会を終了いたします。</p> <p>なお、本日会議資料として配りました、計画における介護給付量の推計は、回収させていただきます。</p>

<p>事務局 (星野課長)</p> <p>多久島課長補佐</p>	<p>この素案をもとに、パブリックコメントで広く市民の方に意見を聞いてまいります。なお資料の福祉サービスごとの数字ですが、推計という形で出しており、今後、介護報酬・介護保険料等の決定によって、動く予定があります。</p> <p>第3回の会議の時には、さらに固まったデータでお示しいたしますので、本日は途中経過の提示でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>次回の部会は、1月30日、月曜日を予定しております。</p> <p>お忙しいところ、申しわけありませんが、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">——以上——</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>上記のとおり相違ないことを確認する。</p> <p>(承認者)市原市保健福祉懇話会 高齢者保健福祉専門部会</p> <p style="text-align: center;">委員 <u> 亀田日出子 </u> 印</p> <p style="text-align: center;">委員 <u> 黒須正明 </u> 印</p> </div>
--------------------------------------	--